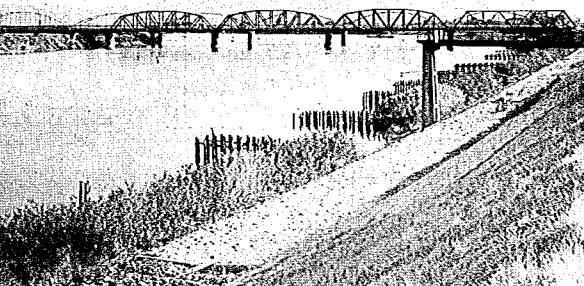


年ねん伸びる使用水量

水は上手に使いましょう



私たちの命の網ともいべき阿賀野川と取水塔

私たちの生活にいっただくとも欠かせない水
——これから本格的な夏を迎えて、ますます水の
使用量が増えます。

水は無尽蔵にあると思いがち。でも、水にも
限りがあります。それに、使用量が増えれば、
浄水施設を拡張しなければなりません。施設拡
張には、ばく大なお金がかかります。

『水の使用量は文明度のバロメーター』とい
われたのは昔のこと。今は、水を上手に使うこ
とこそ、文化生活なのでは…。

田市までの長さ)に達してい
ます。市制施行の昭和二十六
年には、六千八百八十九世帯
のうち、二千九百二十三世帯
(四二・五九)しか水道を使
用していませんでした。それ
が、二十五年後の今日では、
一万四千七百八十四世帯と、
約一千件の事業所などが給水
を受けています。

昭和三十年、市村合併によ
り人口も五万人台となり、水
道も本格的な拡張工事がはじ
まりました。この二十年間に、
給水人口は一・二倍(2万人
の増)、使用水量は四倍との

日最大給水量は、昨年の夏場
(八月五日)には二万五千三
百五十六立方メートルになり、凍
今年の一月二十四日には、凍
結予防や破裂などにより、異
常と思われる二万八千七百五
十七立方メートルという最高
使用量となりました。

特に、これから七月、八、九
月は、使用水量の急激に伸
びる季節です。水源の阿賀野
川も渴水期に入るため、水を
て施設面でも拡張工事がす
み、浄水能力も、一日二万
七千立方メートルと三倍にの
びました。

夏はビンチ!

昨年一年間の一般家庭の季
節別の使用水量を一世帯あたり
みてみると、春(四・六月)、秋(十
月・秋(十一月))、冬(一月・三月)は、平均して一
ヶ月当たり十六立方メートル
程度ですが、夏(七月・九月)
は、一ヶ月当たり二十二立方
メートルとなっています。

今年の夏は、各家庭使用量
の自然増及び人口増により、
一日二万七千立方メートルの
能力をオーバーする日が多く
予想されます。水道局でも多く
十分な対策をたてていますが、
使用水量が伸びれば、料金
も多額になります。まあもつ
て心がけておいてください。

○: 一日あたりの給水量
□: 日本一大きい給水量

▽: 使用料金徴収が毎月徴収
(二ヶ月分を一回)ですので、夏場は使用水量が伸び、料金
も多額になります。まあもつ
て心がけておいてください。
△: 一日あたりの給水量が二万七千立
方メートル以上をこえる日が
数日続きますと、節水をお願
いしなければなりません。ム
ダな水の使用がないよう、心
がけましょう。

お願ひ!

さる六月二十六日、市民
会館で少年芸能教室が開か
れました。当日作ったのは、
ワラ細工の馬。講師の土田
真一さんの説明を聞きながら
、二百四十人あまりの多人数
の児童が馬を作りました。光景は
壯觀です。あら、二百四十人
の児童が馬を作ったのです。
そのときには、本堂、庫裡をはじ
め、境内の樹木にいたるまで
表装は焼け落ちてあとかたも
なくなっていました。

ましたが、中身だけはそつ
くり残っています。それ以来、このあり
がたい御曼陀羅様を、飛火の
本尊と呼んであがめたという
ことです。そして、火難を避
けて本尊の飛んだ場所を光り
田と呼び、今まで地名は残
っています。

また妙蓮寺は、江戸期に德川光圀の偏依をうけ、光圀の
遺品なども寺宝として伝えられています。そして、当時の
方の有力な寺院であった
ことを物語るものとして、近
くではまれに見る壮麗な朱
色の山門に、その象徴を見る
ことができます。

これができます。
ちなみに、妙蓮寺は、明治
二十七年にも火災で全焼し、
本尊がとんだといわれる光り田付近
の寺の本尊に、日印上人
の師日朗上人の直筆になる、
法久山寿量院妙蓮寺と号しました。
當時寺領の一つであつた古津の田の中から、夜ごと
に光り輝く物が出るという噂
が立ち、人びとは不思議に思
っていました。

その人が近くで仕事をしてい
ると、何やら汚れた紙が文字
であります。

売らない
見せない
読まない

悪書追放!
『3ない運動進めよう

青少年をとりまく有害環境
をなくすため、いま県内一
斉に『環境浄化活動月間』
が展開されています。
近ごろでは、出版物や広告
物に、性や残虐場面をあつか
つたものが多く見られます。
こういったものは、いわゆる
青少年にとっての『悪書』で
す。感受性や模倣性の強い青
少年にとっての『悪書』で
す。このため市では、この活動
期間とも合わせ、とくに青少年
年にとてよくない『出版物』
『広告物』を重点対象とした

た日印上人です。それまでこの寺は、眞言宗の一寺でした
が、日印上人の北陸地方遊化
に際してその高徳を感じ、日
蓮宗に改宗して堂宇を建立し、
上人を請じて開室供養を行い、
法久山寿量院妙蓮寺と号しました。
當時寺領の一つであつた古津の田の中から、夜ごと
に光り輝く物が出るという噂
が立ち、人びとは不思議に思
っていました。

その人が近くで仕事をしてい
ると、何やら汚れた紙が文字
であります。

本尊がとんだといわれる光り田付近
の寺の本尊に、日印上人
の師日朗上人の直筆になる、
法久山寿量院妙蓮寺と号しました。
當時寺領の一つであつた古津の田の中から、夜ごと
に光り輝く物が出るという噂
が立ち、人びとは不思議に思
っていました。

飛火の本尊



手作りの味を覚えて
さる六月二十六日、市民
会館で少年芸能教室が開か
れました。当日作ったのは、
ワラ細工の馬。講師の土田
真一さんの説明を聞きながら
、二百四十人あまりの多人数
の児童が馬を作りました。光景は
壯觀です。あら、二百四十人
の児童が馬を作ったのです。

ましたが、中身だけはそつ
くり残っています。それ以来、このあり

がたい御曼陀羅様を、飛火の
本尊と呼んであがめたという
ことです。そして、火難を避
けて本尊の飛んだ場所を光り
田と呼び、今まで地名は残
っています。

ましたが、中身だけはそつ
くり残っています。それ以来、このあり

がたい御曼陀羅様を、飛火の
本尊と呼んであがめたという
ことです。そして、火難を避
けて本尊の飛んだ場所を光り
田と呼び、今まで地名は残
っています。